



愛川ふれあいの村 今月の風景

2020年7月 自然のたより

野生動物が多く訪れる、愛川ふれあいの村。イノシシの痕跡・シカの食事・ウサギの目撃例もありました。たくさん生えるキノコには目もくれず、おいしい若葉やゆり根を食べる動物たち。サンコウチョウのさえずりや新たに発見したシャクジョウソウ、エリマキツチグリなどに自然の豊かさを感じます。花や動物、鳥など村の豊かさをお楽しみください。(石川)



ナンテン



ニイニイゼミの抜け殻



オトギリソウ



タマゴタケ



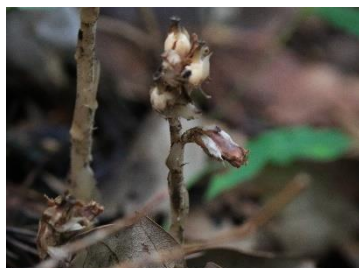
ミヤマカミキリ



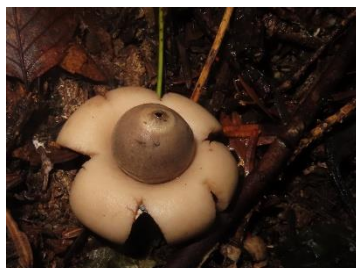
ダイミョウセセリの卵



チダケサシ



シャクジョウソウ



エリマキツチグリ



コマツナギ



シマヘビ



ポタンクサギ



ガガ任とダミョウセリ



ベッコウハゴロモの羽化



ヤブカンゾウ

トピックス★その後のカキドオシ★

春先に良く目立つ薄紫色のカキドオシの花は、四角形の茎が特徴のシソ科の植物で道端や野原などに生え誰でもよく見ることができる美しい花である。唇形の花を咲かせその蜜は、早春に活動する昆虫たちにとって欠かせない食料源である。長い葉柄の先に楕円形の葉が対生していて、5~20cmぐらゐの高さまで直立し花を咲かせる。花の咲くこの時期に採集したものは、神経の高ぶりを鎮める作用があり、子どものかんの虫に効くので別名カントリソウと言われ薬用として昔から重宝されている。また、生葉の汁は、虫に刺された時に効き目がある。

さて、そんな可憐な花だったカキドオシはその後どうなっているのだろうか。春の頃、花の咲いていた辺りを探すと、見覚えのある丸い葉が対生している植物が道の方にはみ出していた。茎が四角形でその葉は何とも言えない清々しい香りが魅力的なカキドオシだった。



カキドオシの長さを計測しようと持ち上げようとすると先端の一つ前の節からすでに根っこが数本出ていた。根っこが干切れなようにそっと持ち上げると26節あり25節からはみんな根っこが伸びていた。節と節の間は、初めは2~3cmで短い、中程は7~9cm程あり、全長は1m50cm程でとても長く驚いた。名の由来は、どんどん伸びて「垣根通し」「垣通し」「カキドオシ」と言われるようになった。植物の恐るべき知恵と逞しさを学んだ気がした。(吉田)

生き物 ★ホソミイトトンボ★

梅雨の明けきらない小雨の中。村内を散策していたところ、鮮やかなブルーが目の前を通り過ぎた。見失うまいと必死で辺りを見渡すと、雨に濡れた葉の上にたたくむ、小さなイトトンボを見つけた。

薄くて小さな翅を持つ、このホソミイトトンボは、儂げな見た目とは違って、成虫で越冬する逞しさを持つらしい。トンボの生態でいえば、子どもの頃、ため池などで見つけて遊んでいたヤゴが、実はトンボの幼虫だということを知ったのは随分と大きくなってからのこと。

成体とは似ても似つかないその姿かたちは、自然の不思議さや面白さを感じるにはうってつけの素材だな、と改めて感じた。(袖山)



旬 ★筍 (タケノコ) ★

竹かんむりに旬と書けば、ご存じ『筍』。村には食用とされる筍が3種類あります。まず最初に現れるのが、りんどう棟の横にあるモウソウチクの竹林です。4月から5月にかけて立派な筍が次々に顔を出します。モウソウチクの旬が終わるころ、野外炊事場の裏手、自然観察路付近に出てくるのがハチクです。「破竹の勢い」ということわざもありますね。そしてハチクの短い旬が終わるころ、マダケの筍が現れます。BBQ場の上にちょっと細いがマダケの竹林があります。旬は6月終わりまで続きます。筍は食用としても、成長した竹は昔から生活用品の資材としても日本人にとって親しみやすい植物です。(高梨)



甲子園のトンボ 来月の見どころ

毎年お盆の頃になると決まったように野原を所狭しと飛び交うトンボがいた。お盆の時期に現れるので、このトンボを「盆トンボ」「精霊トンボ」と言っていた。最近では、地球温暖化の影響なのかウスバキトンボの飛来時期が早くなってきた。今年は新型コロナウイルス感染症の影響で、甲子園球場での全国高校野球選手権大会は行われませんが、例年八月の暑い日に外野の芝生が映し出されると決まったようにこのウスバキトンボがすいすいと飛び回り野球の緊張した場面を少しだけ忘れさせほっとする。このトンボが休むことなく飛び回るのは体長四五ミリのほどで胸の筋肉は発達しているが重さはなんと一㌘以下でとても軽いからである。またこのトンボは寒さに弱く冬越しが出来ないので甲子園の芝生を飛びトンボも遠く南から渡ってきて産卵発生をくりかえしているらしい。

ふれあいの村でも草刈りの後、小さな昆虫を探して飛び交っているが、気温が下がるとうとう間にいなくなる。遅れたトンボが音もなく枯れ枝に止まったのでそっと近づくとたくさんのおトンボが羽を休めていた。皆さんの近くでも活動するウスバキトンボを是非観察してみてください。(吉田)

